

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 28日

事業所名 ケアステキっず

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	利用定員に対し、必要なスペースは確保できている。	通常の利用に関しては特に問題ないと考えているが、感染症の流行時、感染予防のために小集団・個別での活動を行う場合には相談室の活用も含めた工夫が必要。
	2	職員の配置数は適切である	71%	29%	利用人数に応じて適切な人数配置を心がけている。	男性職員が少ないため、増員に向けて検討中。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	29%	71%	階段の手摺以外には具体的なバリアフリー対策ができておらず、今後、利用者のADLに応じて改善が必要。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	57%	43%	業務のやり方に関して、必要時に管理者及び常勤職員で検討している。	職員全員での検討には至っていないため、全員参加を目標とする。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	71%	29%	事業所で必要と判断した際は文書で保護者等にアンケートを行い、その内容を事業所運営に反映するよう努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	事業所のHPで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	29%	71%	第三者評価は現状、行っていないが、外部のコンサルタントの指導を受けて業務改善に努めている。	第三者評価の受審については検討中である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	43%	57%	ミーティングを通して情報交換、研修を行っている。	研修の頻度をより多くして、研修の内容についても現状に即した内容(感染症対策、個人情報保護、虐待防止関連)への変更を検討中。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	43%	57%	アセスメントを行った上で計画を作成している。	アセスメントを行って計画を作成しているが、保護者や子どもの意見や意向をより一層反映したいと考えている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	57%	43%	主に全社協のアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	86%	14%	月毎で担当職員を決めて活動プログラムの立案を行っている。	感染症の流行により、活動プログラムの内容ややり方に一定の制限がかかる場合があるが、それを踏まえて検討していきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	86%	14%	プログラム内容が偏ったり、固定化されないよう検討している。	来年度は児童が楽しめるプログラムをより一層充実させたいと考えている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	57%	43%	課題設定自体はそれぞれの児童に対して設定している。	平日、休日、長期休暇等に応じた課題設定ができるよう努める。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	57%	43%	個々の児童に合わせて課題を設定している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	43%	57%	担当表を作成し、確認している。	担当表を各自でチェックするだけでなく、日々の業務開始前の打ち合わせを極力行っていくようにする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	29%	71%	支援終了後に職員全体で集まることが難しく、振り返りをこまめに出来ていない。代わりにメール等で共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	86%	14%	日々記録をとっている。	とった記録を支援の検証や改善に結びつけるように、職員間のミーティングの機会を増やす。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	毎月モニタリングを実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	86%	14%	ガイドラインに基づいて複数の活動を支援を行っている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	その児童の事を理解している常勤職員が参加している。	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	71%	29%	送迎時やケース会議等で情報共有を行っている他、必要な児童には電話等で報告・相談を行うようにしている。	依頼があれば対応をしているが、児童の支援をより充実させるため、事業所から積極的に情報共有の機会を作りたいと考えている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	57%	0%	医療ケアが必要な児童の利用がない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	86%	14%	保育所等や児童発達支援事業所への見学は現状あまり行えてなく、電話での情報交換を実施している。	依頼があれば対応をしているが、こちらから積極的に連携を取ることはできてない、要改善。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	71%	29%	事業所等から依頼があった場合に必要な情報を提供している。	依頼があれば対応をしているが、こちらから積極的に連携を取ることはできてない、要改善。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	71%	29%	専門機関等との連携は現状あまりできていない。	依頼があれば対応をしているが、こちらから積極的に連携を取ることはできてない、要改善。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	29%	71%	子ども食堂を実施して、地域の子供に事業所に来てもらう機会を設けた。	子ども食堂については、コロナの拡大に伴って一時中断となってしまっているが、今後も継続して行いき、定着させたいと考えている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	協議会に継続的に参加している。今年度はコロナの影響により全体での集まり自体はすべて中止となった。	今後も参加を予定している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	計画作成、更新時に保護者と面談を行うように努めている。	面談の時間を確保しにくい場合もあるため、保護者の状況に合わせてオンライン等の形でも面談を行えるようにしていきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	0%	71%	ペアレントトレーニング等の支援は実施できていない。	実施に必要な知識、スキルを職員が身につけるようにしていきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	86%	0%	契約時に書面を用いて説明をし、制度の変更時にも再度説明するように努めている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	保護者からの相談があれば都度対応している。	相談に応じるよう努めているが、事業所のみでの対応となっているため、外部の機関や専門家との連携が必要だと感じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	14%	86%	現状、保護者同士の連携を支援できてない。	何らかの形で保護者同士の連携を支援する必要性があると感じているが、具体的な方法については検討中である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情が出た際は速やかに対応するよう努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	SNS(Instagram)やHPで情報を発信している。	今年度はInstagramを導入して日常の様子を昨年度よりも積極的に情報発信するようになったが、情報発信については今後も重点的に行うべきだと考えている。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報の取扱に注意し、職員にも守秘義務を遵守するよう指導している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	86%	14%	必要に応じて絵カード等を活用している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	71%	0%	子ども食堂を実施して、地域の子供に事業所に来てもらう機会を設けた。	子ども食堂については、コロナの拡大に伴って一時中断となってしまっているが、今後も継続して行いき、定着させたいと考えている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	71%	29%	各種マニュアルは策定しているが、周知できていない。	少なくとも職員全員が内容をしっかり把握できるよう努める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	奈良市北消防署の協力のもと、避難訓練を実施した。	非常災害に備えて、今後も継続的に訓練を行っていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止のための研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	対象となる児童がいない	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	86%	14%	食物アレルギーやカロリー制限等がある児童については、事前に保護者に詳細を確認し、必要な対応をしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	71%	29%	ヒヤリハット報告書を作成して、職員間で共有している。	